

大学生のあがり性

21011268 苜米地康太

1 目的

- この研究では人がどのような状況で「あがる」のか、あがる状況と個人の性格には関わりがあるのかといことを調べた。

2 内容

- 自分で作成したアンケートを使用して、評価については下記のように 5 段階に設定した。
- 性格面に対しての質問と場面ごと
- (大衆に向かって話す場合、面接で話す場合、初対面の人と会って話す場合、先輩と会って話す場合、後輩と会って話す場合、友達と会って話す場合)の質問を合計 70 問設け、この関係性について調べる。

3 方法

- 多摩大生 50 人を対象にアンケート調査を行い、その結果を SPSS の因子分析、相関係数による分析、分散分析で分析する。

4 結果

アンケートの性格面の項目全体を因子分析した結果、

- 因子 1 をストレス耐性がある人
- 因子 2 を社交的で緊張しない人
- 因子 3 を元気が良い人
- 因子 4 をプライドが高い人とした。
-
- アンケート項目の全体で相関係数による分析を行った結果、
- 性格面と場面ごとの質問に関しては高い相関がみられなかった。
- 因子の得点と場面ごとの質問ではいくつかの高い相関が見られた。
-
- 性格面の質問と場面ごとの質問で分散分析を行った結果、
- 0%であったため因子得点と場面ごとの質問は差がうまれると判断できた。(有意水準が 5%以下だと差が生じるとした。)